

的でしたが、最近では ACT の受験者も急増しています。

SAT は、適性テスト (Aptitude Test) と科目別テスト (Subject Test) に分かれています。最近、科目別テストの成績提出を要求するアメリカの大学が少なくなってきました。しかし、帰国生入試で提出を要求する大学がありますので、注意してください。

アメリカの大学出願のためには、11 年生の春から 12 年生の 12 月実施の試験まで受験するのが一般的です。しかし、日本の大学の 4 月入学の帰国生入試の出願は夏以降ですので、12 年生 6 月の試験までの結果が使えます。

受験へのアドバイス

1、どの試験？

受験しなければならない試験に注意しましょう。

帰国生入試で、最も人気の高い早稲田大学・慶應大学が統一試験の成績提出を要求しています。

2、計画的に受験を

アメリカの大学との併願を考え、SAT と ACT の両方を受験する高校生が増えています。受験時期が重なりますので、スケジュールをしっかり立てて、準備・受験してください。

3、現地校の勉強 = 最高の受験勉強

最近の統一試験は、Reading や Writing の設問数が増えています。付け焼刃の受験対策よりも、日頃の English や Social Study の勉強がもっとも有効な受験準備です。高得点を挙げる現地校の友人の全員が塾で勉強しているわけではありません。

参考サイト TOEFL・SAT : www.ets.org, ACT : www.act.org

学部・学科選び

日本の大学は学部 (時には学科・専攻) 単位で新生を募集します。そして、アメリカの大学とは異なり、入学後の学部や学科の変更が非常に困難になっています。

ですから、自分が出願・受験する学部・学科を、事前にしっかりと考えて、決めなければなりません。ところが、海外の高校で学んでいる日本人生徒は、日本の志望大学の学部や学科で具体的に何を学べるのか、当然知りません。

また、「進路は自分で決めなさい」といわれても、自分自身の将来の希望や夢を考えて、何を学べばいいのかがはっきりしないのは、18 歳では当然です。

しかし、そのために、高校生自身が積極的に情報を集めて、考えるしかありません。進路を他人に決めてもらうわけにはいかないので、悩めぬくしかありません。がんばってください。

保護者ができること

海外で子どもが日常的に接触できる、日本人の大人は保護者以外にいません。保護者が、日本の大学や社会の話の第一のニュース・ソースなのです。あとは、補習校の先生？

まず大学・学部選びを手伝ってあげてください。ご自分の大学時代の話から始めましょう。話がちょっと古くてもかまいません。その話が、今の日本の大学の学部や学科の理解の基礎になります。

できれば、一緒に、志望大学のホーム・ページを見て、解説してやってください。説明しながら、ご自身が現在の大学事情を理解することになり、より良いアドバイスができます。

次はご自身のビジネスの話です。お子さんが経済や商学・ビジネスの進路を考えているなら、業務の目的・利点・問題点など、日頃の仕事で見聞きしたことがベストです。その話を聞き、お子さんは「面白い」「いやだ」を考えます。それが、進路決定の第一歩になります。

それから、面接や小論文の家庭教師になってください。これらの試験の受験には、一般的な社会の知識が必要です。もちろん、お子さん自身が現地校や現地社会での経験を通して身につけたものが基本です。それを、日本語で表現し、掘り下げる練習に付き合ってください。

時事問題や社会問題などの簡単な説明からスタートです。お子さんは外国で英語での生活をしているので、社会情報に乏しく、基礎的な理解が不十分で社会的な関心が薄いことがお分かりになります。それを日本語で補習することも目的です。

会社の部下とのインタビューの真似事も十分効果があります。話し方・言葉使いの注意だけで、面接力が向上します。

ここに述べたことをいきなり「やろう」といっても、親子共々少し落ち着かない？ それでは、日曜の朝、お子さんと二人でコーヒー・ショップへ出かけましょう。話のきっかけが容易につかめます。(私は、これで成功しました。)

日本の大学、大改革中！

少子化・グローバル化の嵐の中、日本の大学はサバイバルを賭けて大改革中です。10 年前とは隔世の感があります。今後、改革のペースはさらに加速していきます。

そんな日本の大学への進学を決め、帰国生入試を受験するのなら、まず、本気になって情報を集め、その仕組み・実態を勉強してください。お子さん一人では無理です。親子で「共に学んで」チャレンジです。

必ず成功します。がんばってください。